

校長つうしん No.40

Sapporo
Odori

2018.3.1

鈴木 恵一



あのね、コーちゃんせんせい

卒業生の君へ。卒業おめでとう！ 伝えたいことは式辞で伝えます。

これまで、校長室を尋ねてくれた生徒が何人かいましたね。時間の都合がつくときは面談し、時に、よもやま話、笑い話に花を咲かせ、時に悩みや愚痴を聞かせてもらいました。きっと、君の悩みは多くの人にも共通の悩みなのだと思います。ある生徒が言いました。

「私はなんの取り柄もない人間で無能です。目標がなくて漠然と過ごすのはダメだと思っているけど、そう思っているだけで行動に移せない。そんな自分がイヤで……」

私は次のような話をしました。

誰も自分のことを「私は無能です」と声高らかに言わないけれど、頑張っている人や成果をあげた人を見ると、凄いと思う。つい他人と比較してしまう。「それに比べて自分なんて……」と、心のなかで思ったりするよね。無知・無能を晒すことは恥だと思ってしまうと隠したくなる。

でも、どんな人でも、すべての面において無知・無力なわけじゃない。君がこうしてここへ来たのは、行動力や勇気があると思うし、何かを発見したいとか、校長室にいるオッサンは何を考えているか知りたいとかね(笑)、いろいろ思うことがあってきたわけだろう？ 案外ね、君と同じことを思っている

人はいっぱいいるもんだよ。私自身、自分の高校時代を振り返ってもそうだった。勉強に関しては絶望的な時期があった。無能であることを悟られまいとして背伸びし虚勢というか見栄を張る。自分の欠点を隠す。ある人は成長したくて誰かを師と仰ぎ、真似をしたり教を請い努力する。ある人は自分の能力を誇り、他人をさげすむような振る舞いをする。いろんなタイプがいるよね。



◆君はどういう人でありたい？

何かに挑戦して成功したり成果をあげた人は、こう考える。

「人間には無限の可能性がある。夢をあきらめちゃいけない」と。

でも、本当に無限かな？ 冷静に考えたら叶わない確率が高いことってあるよね。私が宇宙飛行士になって宇宙を飛んでみたいと夢を語っても、最初の段階で選別されて、その後過酷な



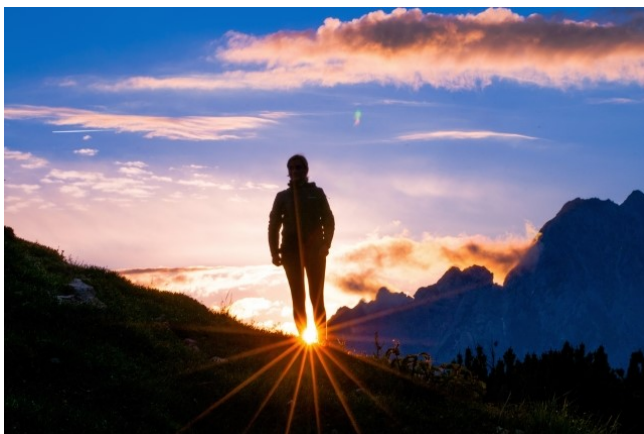
訓練を受けて、そこでも選別されて、しかも、相当に高いレベルの専門知識も身に付けなければならない。でも、間違いなく宇宙飛行士になる人が世界には何人かいる。だから。厳密に言えば、可能性はゼロではないよね。でも年齢がね(笑)……

君の内に秘められている可能性もゼロではない。でも、その可能性の大きさがどれほどのものかは、君自身が挑戦して初めて見えてくることだよ。ゴールにたどり着くまでの道のりはどれくらいあるの？ どれだけ努力すればいいの？

「挑戦」には今の立ち位置を冷静に見極める（自分を知る）ことも必要なんだ。

自分にも限界があることを理解しつつ、その最高点（限界点）がどこにあるか、チャレンジしない限り誰にもわからない。少しでも可能性があると感じた人、届きそうな夢だと強く信じる人は、下調べをして基礎固めの努力を怠らず、小さな挑戦を重ねながら、目標までの距離を少しずつ縮めていく。

勉強で頑張る、仕事で頑張る、スポーツで頑張る……続けていれば特定の能力が磨かれ、「努力は嘘をつかない」と思い始める。将来の仕事について、どうしようかなと悩むときもあるだろう。職業適性なんてないと思って尻込みする。どんな仕事に就いても、最初はみんな不安だし失敗もする。でも頑張りを続けていると、その仕事に必要な「適性」が磨かれる。



もちろん、人によって成長の速度は違う。これまでいろんな人を見てきたけど、誠実に前向きに取り組むことが大事なんだと確信しているよ。挑戦しなきゃ何もない。失敗もなければ成功もない。何もしないと、どれだけ努力したらいいのかもわからないってことだよ。無茶なことは言っていないだろう？ やってごらん。